

取扱説明書

なにがなんでも速度警告灯

1 機能

スピードメーターワイヤー回転のパルス変換にデイトナ製デンスピ変換アダプター TWIN TYPE(93390)を使用して、任意の閾値速度(デフォルト時速 76km)を境に、電流を流したり止めたりします。








閾値は、時速 40km～時速 199km まで 1km 単位で任意に設定することができます。

速度警告灯への接続は、アノードコモン(マイナスコントロール)で、6W 程度まで制御が可能です。その範囲であれば、電球以外のデバイスを動作させることも可能です。(6W 以上はリレーを使用してください)

2 取り付け

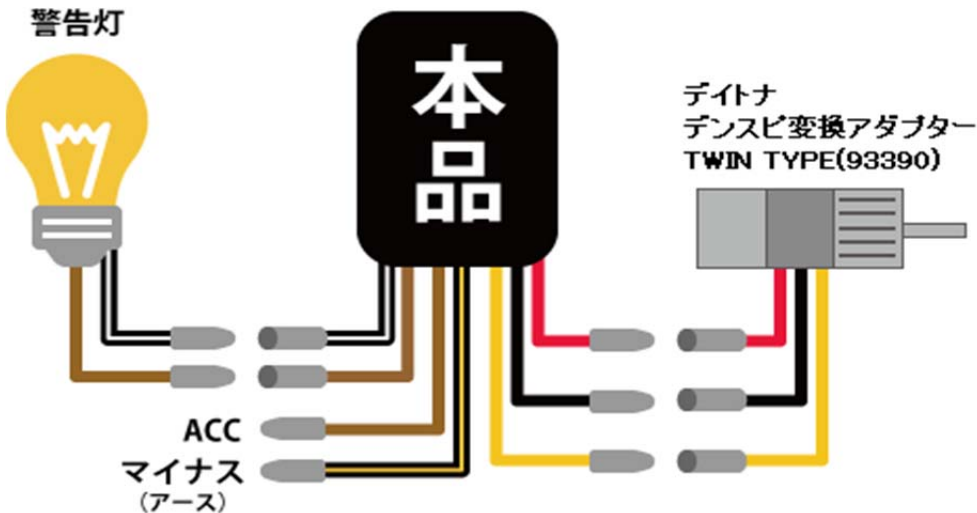
※取り付けに自信の無い方は、取り付けをプロに依頼してください。

2.1 配線の色と種類

	(茶)	……	電源。キーONで12V、OFFで直ちに0Vになる配線
	(黒/黄)	……	アース。マイナス
	(茶)	……	速度警告灯のプラスへ
	(黒/白)	……	速度警告灯のマイナスへ
	(赤)	……	デンスピ変換アダプターの赤配線へ
	(黄)	……	デンスピ変換アダプターの黄配線へ
	(黒)	……	デンスピ変換アダプターの黒配線へ

※茶線(「電源」と「速度警告灯のプラスへ」)の区別はありません。どちらに接続してもかまいません。

2.2 配線イメージ図



2.3 取り付け方法

1. デイトナ製デンスピ変換アダプターTWIN TYPE(93390)のマニュアルに従って、デンスピ変換アダプターを取り付けます。
2. デンスピ変換アダプターの配線と同色の配線(赤/黒/黄)を接続します。
※デンスピ変換アダプターの配線はかなり細いので配線を引っ張るとすぐに断線します。配線取り回し時に配線を引っ張らないように注意しましょう。
3. 速度警告灯の配線を接続します。速度警告灯は、アノードコモン(マイナスコントロール)です。速度警告灯に LED のような極性のある灯火を使用する場合は、茶線をプラスに、黒/白線をマイナスに接続して下さい。
4. 本体の電源を接続します。茶線を、キーを ON にすると 12V、OFF にすると直ちに 0V になる ACC 配線に、黒/黄線をアースに接続してください。

※1 茶 2 本と赤の配線は基板上で直結しています。どれも同じ条件で使用が可能です。

※2 黒/黄と黒の配線は基板上で直結しています。どれも同じ条件で使用が可能です。

3 動作

- キーを ON にすると、球切れチェック用に速度警告灯が 1 秒間点灯して消えます。
- 実測速度で閾値速度(デフォルトは時速 76km)を上回ると速度警告灯が点灯し、閾値速度を下回ると消灯します。閾値にはチャタリング対策が施されているので、明確に閾値を超えないと点灯/消灯しません。

※ 「なにがなんでも速度警告灯」は、スピードメーターケーブルの回転数から速度を算出しており、スピードメーター自体は見えていません。一般に、スピードメーターは、5~10%程大きい速度を指す上に、機械式スピードメーターの場合は指針の動きが遅いので、速度警告灯の点灯/消灯とスピードメーターの値は何となく合うだけで完全には一致しません。

4 閾値の変更

デフォルトの閾値は時速 76km です。一般的なメーター誤差 5%でメーター表示が時速 80km を境に点灯/消灯させたい場合は変更する必要はありません。

閾値の変更には、キーの位置は ON で、一瞬 OFF にしてまた ON に戻すという操作を繰り返します。これは、「なにがなんでも速度警告灯」に搭載しているコンデンサーの残電流を使って動作する仕組みになっているため、残電流を使い切る前に電源を復帰させるのが目的です。出来る限り素早く、一瞬 OFF にし、即座に ON に戻す操作を繰り返して設定します。

エンジンキルスイッチが ON(エンジンが掛かる側) のままの場合、多くの車両はイ

グニッションコイルへ通電できる状態になって変更失敗を引き起こすノイズの原因になります。エンジンキルスイッチを OFF(エンジンが止まる側)にしてから閾値の変更をしてください。

注意：車両からの電源に大容量のコンデンサーが含まれていたり、メインキー接点が劣化していたり、キーの OFF/ON が曖昧になってしまう車両での閾値の変更はできません。

4.1 閾値のリセット(デフォルトの時速 76km に戻す)

1. エンジンキルスイッチを OFF(エンジンが止まる側) にします。
2. キーを ON にします。速度警告灯が 1 秒点灯し、消灯するのを待ちます。
3. 速度警告灯が消灯したら、10 秒以内にキー操作を始め、キーの OFF/ON を素早く 10 回繰り返します。
4. 正常にリセットされると、速度警告灯が 1 秒点灯して消灯を 3 回繰り返します。
5. キーを OFF にします。
6. エンジンキルスイッチを ON(エンジンが掛かる側) に戻します。

4.2 任意の閾値をセット

1. エンジンキルスイッチを OFF(エンジンが止まる側) にします。
2. キーを ON にします。速度警告灯が 1 秒点灯し、消灯するのを待ちます。
3. 速度警告灯が消灯したら、10 秒以内にキー操作を始め、キーの OFF/ON を素早く 5 回繰り返します。
4. 速度警告灯が 1 秒点灯して消灯します。
5. 10 秒以内にキー操作を始め、設定したい閾値速度の 10 の位数分、キーの OFF/ON を素早く繰り返します。例えば、時速 75km の場合 7 回、110 キロの場合 11 回となります。
6. 1 秒待つと、何回キーの OFF/ON がされたか回数分速度警告灯が点滅し、最後に 1 秒点灯してから消灯します。点滅回数が間違っている場合、正しく設定できていません。一旦キーを OFF にして最初からやりなおしてください。
7. 10 秒以内にキー操作を始め、設定したい閾値速度の 1 の位数分、キーの OFF/ON を素早く繰り返します。ただし、1 の位が"0"の場合は、10 回繰り返します。例えば、時速 75km の場合 5 回、110 キロの場合 10 回となります。
8. 1 秒待つと、何回キーの OFF/ON がされたか回数分速度警告灯が点滅し、任意の閾値がセットされます。点滅回数が間違っている場合、正しく設定できていません。一旦キーを OFF にして最初からやりなおしてください。
9. 正常にセットされると、速度警告灯が 1 秒点灯して消灯を 3 回繰り返します。
10. キーを OFF にします。

11. エンジンキルスイッチを ON(エンジンが掛かる側) に戻します。

4.3 閾値の設定に失敗している時

閾値の設定に失敗すると、閾値の設定操作中に、キー操作に合わせて速度警告灯が点滅したり、速度警告灯が短く1回点灯-1秒点灯を3回繰り返したりします。一旦キーを OFF にして5秒以上待ち、再度最初から操作してください。

4.4 どうしても閾値の変更ができない

キー操作がうまく出来ない、車体の仕様上、キーの素早い OFF/ON 操作に対応できない等の理由で閾値の変更が出来ない場合は、一旦「なにがなんでも速度警告灯」を取り出し、電源配線を直接 OFF/ON することで閾値の変更が可能です。

その場合、キーの OFF/ON 操作が電源の接続/切断に変わるだけです。

5 防水と振動対策

- 防水はしていません。設置場所は、ライトケース内等の水のかからない場所にしてください。
- 振動対策は、表面実装可能な部品は表面実装とし、表面実装出来ない振動の影響を受けやすい部品は熱収縮チューブで基盤に密着させています。

注意事項

- 十分なテストを繰り返していますが、製品に不具合があった場合を含む故障、不具合、損害に対応も保証もできません。ただし、製品自体の修理／交換はその範疇ではありません。
- サポートは、製作者の命が続く限り続ける努力をしますが、製作者が製作者個人でサポートできると判断する範囲までとします。
- サポート窓口は、[こちらの](https://blog.osnet.ne.jp/delta92/)ブログからお願いします。

<https://blog.osnet.ne.jp/delta92/>